

故人宅片付け 形見探し



住人が孤独死した部屋を片付ける遺品整理会社のスタッフ（愛知県豊田市で）

愛知県豊田市のワンルームマンションの一室で9月上旬、遺品整理と特殊清掃を行う「特掃最前線」（名古屋市長の藤村敏寛さん(48)は「これは男性がお盆明けに遺体で見つかった『孤独死』の現場」と説明する。板張りで、6畳ほどの室内。卓上の灰皿には20本以上の吸い殻が残り、数枚の映画DVDが無造作に散らばっていた。借り主の男性は50歳代で、自動車組み立て工場などで働く派遣労働者だった。現場の後始末と遺品の整理は北海道で暮ら

高齢・核家族化で

高齢化や核家族、独身者の増加に伴い、故人の自宅を片付ける遺品整理士が注目を浴びている。一方で、料金や不法投棄などのトラブルも絶えないため、業界は4年前、遺品整理士認定協会（本部・北海道）を設立。プロの養成に乗り出した。今後の需要は増加が見込まれる中、認定士は昨年、全国で約7000人に達した。遺品整理とはどんな仕事なのか。現場取材した。（込山駿）

遺品整理士に脚光

遺品整理士認定協会によると、遺品整理業は20〜30年前から、主に便利屋やハウスクリーニング業者らが手掛けてきた。2011年9月の協会発足と資格の認定制度が出来たのを機に、運送、葬儀、福祉などの分野からの参入も目立ってきている。

全国7000人 愛知は500人

認定士になるには、大学教員や弁護士が講師を務める通信教育で遺族対応の仕方や廃棄物処理法などの法令知識を約2か月間、学ぶその後提出したレポートが認められれば、資格を得ることが出来る。昨年10月現在で全国で約7000人の認定士がいる。最も多いのが東京の約8000人で、愛知は5番目の約5000人。協会発足から約半年後の12年4月時点では全国で約1000人ほどで、愛知でも10人に満たなかった。その後の約2年半で、認定士は急増した。ただ、業界の健全育成のために認定士制度を作ったが、資格がなくとも遺品整理業はできる。悪質な業者によるトラブルは絶えない。遺品の盗難、不法投棄、不当に高額な報酬請求……。国民生活センタリーによると、遺品整理を巡る相談は毎年数十件、寄せられ続けている。同協会では「大切な人を亡くした遺族に寄り添う心と正しい知識を持った遺品整理士の存在を知ってもらえば、悪質な業者の淘汰が進み、業界の健全化につながる」と話す。

す年老いた両親の手に負えず、特掃最前線が約23万円を請け負った。

発見時、部屋はテレビもエアコンもつけっぱなしで、男性は布団に横たわっていた。

たという。病死で、発見ま

片付けられた室内で、3人は機材で室内を脱臭し、消毒した。続いて、戸棚やパ

ツクの中から食器や衣服など遺品を取り出し、段ボール箱やビニール袋に仕分けし、2時間余りで、部屋は片付いた。形見として両親に届けられそうな、海外製の腕時計も見つかった。ゴミ屋敷と化した他の現場では天袋の奥から小学校時代の教科書とアルパムを、オーディオ愛好家の家ではスピーカーの内部に多額の現金を見つけたこともあった。遺品整理とは単なる片付けではない。藤村さんは「故人をしのばせる何かを見つけて出すこと。それを遺族に届けて『ありがとう』と言われた時、この仕事の意義を感じる」と話す。